



写真② セラニウムだけでも美しい



写真①  
パリの園芸資材店で売られているテラコッタ

年以上前のパリの大改造計画が始まりました。パリの中心市街では、厳しい建築制限が行われ、建物の高さは20m、ほぼ6階までと制限されています。

ます。実際、歩いてみると、古い石造りの建物が、ごく当たり前のようにそろうて並んでいます。そして、何より広告宣伝がとても少ないことに驚きました。

日本の繁華街は看板、ネオン、のぼりなど、ごちゃごちゃと色があふれ、「騒色」となっていますが、パリには看板類がほとんどありません。そのことが、まちなみに大きな品格を与えているのです。

そして、パリの景観には、赤がとてもよく似合います。なぜならば、背景のベースがベージュで統一されたモノクロームな世界、色がとても少ないからです。

パリで見かけた花飾りは、ただの赤いセラニウムの単植であつても、それは美しく、カメラを構えずにはいられません。写真②。赤い花も、カフェの赤いオーニング（店舗前の日よけ）も、道行く人の着て



写真③ パリの街に似合うルージュ（赤）

いる赤いセーターも、どれもが街のアクセントカラーとなり、絵になる風景をつくっています（写真③）。

日本の花飾りの方が、正直ずっと凝っています。しかし、日本では背景にあまりにも多くの色がありすぎるため、残念ながら目立たないのです。石造りの建物と石畳の背景の中に飾られたパリの花飾りはとても美しく、花は、その地域で産出された自然物の中でいきいきと映えるのだとしみじみ感じました。

日本も、かつてはそうだったと思います。現在でも、京都や金沢など「重要伝統的建造物群保存地区」のま

### 景観に似合う花飾りの考え方

次に景観に似合う花飾りの色彩（コンセプトカラー）やデザインを考へる方法の一例を、ご紹介したいと思います。

#### ①前提条件の整理

##### ◆対象となる景観の把握

- ・ オフィス街なのか、商業施設なのか、住宅街なのか、観光地なのか。
- ・ 花飾りを施す目的（潤いなのか、にぎわいなのか等）や希望についてクライアントからヒアリングする。
- ・ 日当たり、風通しなど、植物の生育に関しての環境条件や、水の管理方法（メンテナンス）などを洗い出す。

◆地域や通りの歴史や文化などについて調べる

・ まちなみの背景には、気候風土に

ちなみ、日本庭園、そしてそこに生

える日本古来の和の植物は、訪れる人々の心をひきつけます。高度経済成長の中で日本らしさや地域らしさが失われ、どこも似たようなまちはかりになってしまったこの国。地域の特色が残されているところは、ぜひともそれらを尊重し、失われたところでは、まちなみの個性を育んでいくことが必要でしょう。

まちなみの景観が魅力的になれば、人々が集まり、またそこに住む人々の愛着心・連帯感が芽生え、まちなみの活力が生まれるのです。

育まれた地域の歴史や文化があり、それが、まちなみの景観を形成する要因になっていることが多くある。

・ 桜の名所ならば、④の色彩設計においてピンクを年間意識するなど、有形・無形に関わらず、地域の特長となる名所やお祭り、工芸品、歴史などから地域色を考える。

#### ②周辺環境調査

◆実際に歩き、写真撮影、印象をメモする

・ 現地を歩いた景観の印象やイメージを取りまとめる。

◆花飾りを施す位置から景観に影響を与える大きな建物や、構造物などの色彩をとらえる（色票を用いての測色など）

これが④の植栽プランの際に、背景の色として関係してくる。例えば